

2016年6月12日(日)朝10:10～
6月第2花の日共同主日礼拝式説教

聖霊降臨節第5、役員会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**悔い改めよ、
マナ、白い石を与える**

聖書：ヨハネの黙示録 2章12～17節

＜口語訳＞

新約聖書387～388頁

ヨハネの黙示録 2章12～17節

＜新共同訳＞

新約聖書454頁

ヨハネの黙示録 2章12～17節

＜新改訳第3版＞

新約聖書478頁

ヨハネの黙示2章12～17節＜塚本訳＞

新約聖書781～782頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。

◇ヨハネ黙示録1章1～8節は、序言ですが、前半の1～3節は、神の御子イエス・キリスト様の再臨信仰を持って生きるキリスト者への励ましのことばと黙示の神の御子イエス・キリスト様の愛の思いが、4～8節は、序言の後半、4～5節前半が「祈り、願い」、5節後半～6節が、「神への讚美」、7～8節が、ヨハネの宣言と、9～20節は、神の幻顕現とヨハネへの命令で、2章1～7節は、エペソ教会へ手紙、8～11節は、スミルナの教会へ手紙です。

◇ヨハネの黙示録2章12～17節は、ペルガモの教会へ手紙です。

⇒ペルガモ教会は、スミルナ教会の北約100kmにある皇帝礼拝のあるアジアの首都でした。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第2章12～17節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録2章12～17節；ヨハネは、ペルガモの教会に悔い改め、偶像礼拝を捨て、神のみことばに従う群れとなるように書きました。

◇8～11節；塚本訳◆ペルガモ教会への手紙

「12 またペルガモ教会の御使いに(斯く手紙を)書け、(人の子、その口に)鋭い両刃の剣を有っている者が斯く言うと——

13 私はお前がどんな処に住んでいるかを知っている。其処にはサタンの玉座がある(ため、お前の信仰を言い表わすことがどんなに難しいかを私はよく知っている。)しかもお前は私の名を(堅く)守って、私の忠実な証人(であったあの)アンデパスが、お前達の間(で、すなわち)サタンの住んでいる処で殺された時にも、(なお)私(へ)の信仰を捨てなかった。(このことを私は褒める。)

14 しかしながら、少しくお前を責めねばならぬことがある。それはお前の処にバラアムの教えを奉じている者があることである。彼は(お前も知っているように、)バラクに教えてイスラエルの子ら(を誘い、そ)の前に蹟物を置き、(彼らをして)偶像の供物を食わせ、淫行を行わしめたのである。

15 斯くお前(の中)にもまた、同じくニコライ派の教えを奉じている者がある。

16 だから(早く)悔い改めよ。もしそうでないならば、私は直にお前の所に行って、私の口の剣を以て彼らと戦うであろう。

17 耳を有っている者は、御霊が(全)教会に言い給うことの何であるかを聴け。勝利者には隠されたマナを与えるであろう。また白い石を与えるであろう。その石の上には、(それを)貰った者でなければ誰も(その意味を)知らない新しい名が書かれてある」と、ヨハネは主からの手紙を書き、天使宛に送りました。

◇ 12～13節a; 「(人の子、その口に)鋭い両刃の剣を有っている者が斯く言う」、「私はお前

がどんな処に住んでいるかを知っている。其処にはサタンの玉座がある(ため、お前の信仰を言い表わすことがどんなに難しいかを私はよく知っている。)」と、ヨハネ書いている。

⇒12～13節a; ペルガモの教会は、ヨハネ黙示録1章16節の「その口から鋭い両刃の剣が突き出」たお方からの語りかけを受け、「サタンの玉座」を知っていると**神の御子イエス・キリスト様の警告のことば**を知らされます。

⇒「**サタンの玉座**」は、諸説の理解がありますが、「**ペルガモ**」が、ローマ皇帝礼拝や偶像礼拝の中心地であったことを表現していることは、共通理解で、「**スミルナ**」も、同じでしたが、「**スミルナ**」が良港のある商業都市であるのに対し、「**ペルガモ**」は、内陸でしたので、アジアの首都として、政治的宗教的基点として、また地理的にも、7つの教会の頂点に位置していました。

⇒庄原は、文化発信都市ですが、土着の宗教と一体化する事が当然の様な雰囲気を持っていますので、教会は暗黙の戦いがあります。

◇13節b;「忠実な証人(であったあの)アンデパスが、お前達の間(で、すなわち)サタンの住んでいる処で殺された」時にも、「(なお)私(への)信仰を捨てなかった」と、御子イエス・キリスト様・その口に)鋭い両刃の剣を持つお方は、「ペルガモ教会」を褒めておられます。

⇒「(なお)私(への)信仰を捨てなかった」ほど、「ペルガモ教会」は、殉教者ができるほどの迫害に耐え、神信仰・神礼拝を「捨てなかった」「否認しなかった」のです。

◇14～15節;併し、「ペルガモ教会」は、「責めねばならぬことがあり」、「バラアムの教え」、「ニコライ派の教え」を、「を奉じている者があり」、「蹟物を置き、(彼らをして)偶像の供物を食わせ、淫行を行わしめた」誘惑に陥る人々があつたのです。

⇒「バラアムの教え」や「ニコライ派の教え」は、民数記22章以降で記録されていますように、占い師バラアムが、神の民イスラエルの祝福をしながら、モアブのバラクから金銭を得たいがために、娘を提供して、イスラエルを墮落させる提案をしたところに起源がある教えです。

◇16～17節；「(早く)悔い改めよ」、「もしそうでないならば、私は直にお前の所に行って、私の口の剣を以て彼らと戦う」、「勝利者」には、「隠されたマナを与える」、「白い石を与える」、「誰も(その意味を)知らない新しい名が書かれてある」と、「その口に)鋭い両刃の剣を持つお方・神の御子イエス・キリスト様」が、「**ペルガモ教会**」へ語られます。

⇒殉教をも恐れず、**神信仰・神礼拝**を堅持しながら、「**バラアムの教**」や「**ニコライ派の教**」の誘惑には、「**敗北**」し、「**人間の欲望**」優先の生活には陥ったのでした。

⇒「**その口に)鋭い両刃の剣・心の内外**」を見透すことのできるお方は、「**ペルガモ教会の人々**」の心を突き通されたのです。

⇒「**サタンの玉座**」が、「**ペルガモ**」の政治的宗教的課題ですが、「**ペルガモ教会**」にとっても、大きな課題でした。

⇒戦時中の教会は、この誘惑に敗北し、仏教的キリスト教、神道的キリスト教などが妥協の産物として生み出されたのです。

⇒妥協は、**神信仰・神礼拝**には、伴うのです。

結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**ヨハネの黙示録**は、**1章1節**、「**イエス・キリストの黙示**」とありますように、**神の御子イエス・キリスト様**が、**天使**を通して(1)、**長老・使徒ヨハネ**に与えた「**神の国到来の奥義**」の黙示で、**ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代**に記録されたものと理解されています。
- ◇**ヨハネ黙示録1章1～8節**は、**序言**ですが、前半の**1～3節**は、**神の御子イエス・キリスト様の再臨信仰**を持って生きる**キリスト者**への励ましの**ことば**と**黙示の神の御子イエス・キリスト様の愛の思い**が、**4～8節**は、**序言の後半**、**4～5節前半**が「**祈り、願い**」、**5節後半～6節**が、「**神への讚美**」、**7～8節**が、**ヨハネの宣言**と、**9～20節**は、**神の幻顕現**と**ヨハネへの命令**で、**2章1～7節**は、**エペソ教会へ手紙**、**8～11節**は、**スミルナの教会へ手紙**です。
- ◇**ヨハネの黙示録2章12～17節**は、**ペルガモの教会へ手紙**です。

- ⇒「さばき」は、**神の専権事項、恵みも、神の専権事項**、「**神礼拝σέβομαι**」に全力を注ぎたい。
- ⇒「**祈り、願い、讚美、再宣言**」と「**神の愛と恵み**」は、**神のしもべの使命**です。
- ⇒ヨハネに**黙示**されたことは、「**神礼拝をするσέβομαι**」ことに、「**(主にある)患難、王国(における幸福)、イエス(来臨)の待望**」をもって戦う「**ヨハネの兄弟**」とされたことを**光栄に思う神の教会の人々**によって**継承される**のです。
- ⇒「**ペルガモ教会**」は、「**殉教**」を恐れず**神信仰**に生きる人々でありながら、「**バラアムの教**」、「**ニコライ派の教え**」による**人間の欲望中心の生活**の誘惑には、**敗北**しました。
- ⇒「**ペルガモ教会**」には、「**サタンの玉座**」があるという「**その口に)鋭い両刃の剣**」のお方の**神のみことば**は、**見抜き、「悔い改め」**をお求めになりました。
- ⇒「**その口に)鋭い両刃の剣**」のお方は、「**悔い改める者**」には、「**隠されたマナを与える**」、「**白い石を与える**」と、**約束**しておられます。
- ⇒「**隠されたマナ**」、「**白い石**」は、**神信仰・神礼拝者**の**しるし**で、「**新しい名**」も、**神の保証**です。